

キャリア教育共創プログラム (企業・人材プール) 2019年度 講義実施報告書

2020年6月



はじめに

「キャリア教育共創プログラム（企業・人材プール）」は、産学共創によるキャリア教育（人材育成）の実践策として、中経連が事務局役を担い、会員大学のニーズを会員企業に提供し、会員企業に提供して頂ける講義をご検討いただいた上、当事者間のマッチングを経て、会員企業から会員大学の講義へ講師派遣等を行う取り組みです。

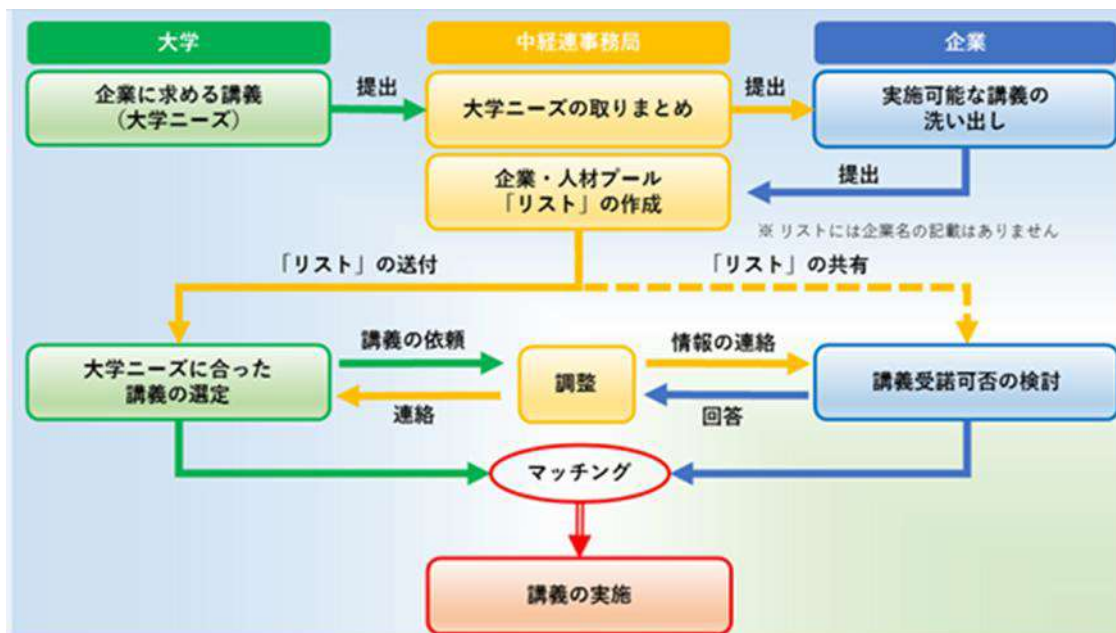
このたび、2019年度の実施報告書を取りまとめましたので、ご報告いたします。ご活用を検討されている会員大学の皆様の参考になれば幸いです。また、今後も会員企業の皆様の引き続きのご協力をよろしくお願い致します。

【参考：2019年度の実績】

- 会員企業 70 社・団体から 162 件の「相談可能な講義内容」を会員大学に提供
- 10 大学において 15 社・団体が 20 コマの講義を実施

なお、本取り組みは、昨年、会員の皆様から「名称から内容がイメージしにくい」、等のご意見をいただき、2020年2月、従来の「企業・人材プール」から「キャリア教育共創プログラム」に名称を変更しております。また、更なる利用拡大に向けて内容の充実等の見直しを行っておりますので、ご意見・ご要望等がございましたら、事務局までご連絡をお願い致します。

（参考）本取り組みのスキーム



【お問い合わせ先：事務局】

(一社) 中部経済連合会 企画部 鈴木・岡戸

TEL : 052-962-8091

E-mail : jinzai@chukeiren.or.jp

目次

<実施報告書（実施日付順。法人の種類の名前は省略）>

| | |
|-------------------------|----|
| 中京大学×TOTO..... | 1 |
| 東海学園大学×東海テレビ放送..... | 2 |
| 南山大学×シーキューブ..... | 3 |
| 愛知県立大学×三井住友海上火災保険..... | 4 |
| 岐阜大学×電通..... | 5 |
| 岐阜大学×豊田自動織機..... | 6 |
| 東海学園大学×豊通ヒューマンリソース..... | 7 |
| 愛知工業大学×小島プレス工業..... | 8 |
| 名古屋工業大学×東海旅客鉄道..... | 9 |
| 中京大学×西日本電信電話..... | 10 |
| 大同大学×グリーンサイクル..... | 11 |
| 名古屋市立大学×三菱UFJ銀行..... | 12 |
| 南山大学×住友商事..... | 13 |
| 南山大学×大同特殊鋼..... | 14 |
| 愛知大学×ジェイテクト..... | 15 |
| 南山大学×豊田自動織機..... | 16 |

※各大学様よりご提出頂きました実施報告書をできる限り原文のまま掲載しておりますが、講師をお務め頂きました方の氏名を伏せるなど、一部修正を行っております。

中京大学 × TOTO

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|--------------|--------------------------------|---|
| 講義等 情報 | 大学名 | 中京大学 |
| | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 2019年4月4日 |
| | 講義等担当企業名 | TOTO 株式会社 |
| | 講義等の種類(選択) | 会社・工場見学 |
| | 対象学部・学科 | 工学部・工学研究科 |
| | 対象学年 | 学部3・4年生 |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 8名 |
| | 講義等の目的・狙い | ものづくりの現場を知り、卒業研究および就職意識向上に役立てる |
| | 講義等のテーマ | セラミック製品の多品種少量生産および特許技術の製品への適用について |
| | 講義等の内容(プログラム) | 会社概要, 製品製造説明, 技術デモ, 工場見学(見学, 体験1, 見学, 体験2), 質疑応答 |
| | 使用言語 | 日本語 |
| 正課・非正課の別(選択) | 非正課 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | <ul style="list-style-type: none"> ・解説や見学に、デモや体験が含まれていて、興味を持てた ・多品種生産の現場を知ることができてよかった |
| | 担当教員のコメント | こちらの希望時間内でコンテンツを修正いただけて、しかも素晴らしい内容であった |
| | 反省点・改善すべき点 | 移動時間の都合により、質疑応答の時間が十分に取れなかった |
| その他 | | |

東海学園大学 × 東海テレビ放送

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|--------------|--------------------------------|---|
| 講義等情報 | 大学名 | 東海学園大学 |
| | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 2019.5.15 16:20～17:50 |
| | 講義等担当企業名 | 東海テレビ放送株式会社 |
| | 講義等の種類(選択) | 出前授業 |
| | 対象学部・学科 | 人文学部・心理学部・教育学部・健康栄養学部 |
| | 対象学年 | 2年生 |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 23名 |
| | 講義等の目的・狙い | 学生のアウトプット力を強化したい |
| | 講義等のテーマ | コミュニケーションの作法 |
| | 講義等の内容(プログラム) | 1. 企業・担当者紹介(自己経験など) 2. コミュニケーションを円滑に行うために(発声方法やポイント等) 3. 質疑応答 |
| | 使用言語 | 日本語 |
| 正課・非正課の別(選択) | 非正課 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | ・円滑なコミュニケーションには、良い滑舌で会話することが大切だと改めて感じ、母音・子音を意識すると良いと思いました。 ・実際にプロのアナウンサーの方の話が聞けて、とてもリアルなことを聞けたと思います。特に経験のお話しでは、大学生にしかない時間を有効活用することの大切さを教えていただき、とても身になりました。 |
| | 担当教員のコメント | 技術的な解説・練習だけでなく、ご自身の大学時代の経験を含めてお話しいただいたため、学生自身も身近に感じつつしっかり聴講できていた。アウトプット力が課題であったが、講座を通してコミュニケーションの作法や大切さを理解できたのではないかと感じた。 |
| | 反省点・改善すべき点 | 質疑応答の時間をいただいたが、自らの意見や疑問を発表できなかった点が見られた。プロフェッショナルにお越しいただく機会ただけに、事前に聞きたいことや要望等を引き出せば、もっと有意義な時間になったのではと感じた。 |
| その他 | | |

南山大学×シーキューブ

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|--------------|--------------------------------|---|
| 講義等情報 | 大学名 | 南山大学 |
| | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 2019年5月22日 11:05-12:35 |
| | 講義等担当企業名 | シーキューブ株式会社 |
| | 講義等の種類(選択) | 出前授業 |
| | 対象学部・学科 | 経営学部・経営学科 |
| | 対象学年 | 2年 |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 20名 |
| | 講義等の目的・狙い | 経営企画の役割、事業計画の立案について学ぶ |
| | 講義等のテーマ | 新しい事業へのチャレンジ |
| | 講義等の内容(プログラム) | 1. 業界・会社紹介 2. 新しい事業への進出の背景 3. 農業へのチャレンジ 4. 学生の皆さんへ |
| | 使用言語 | 日本語 |
| 正課・非正課の別(選択) | 正課 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | <ul style="list-style-type: none"> ・大学での知識がどう活かすことができるのかわかり、貴重な経験でした。 ・新規事業を開発するために、その会社の得意分野からさまざまな面にアプローチすることの重要性が理解できた。 ・「会社の規模が小さくても、面白いことをやっている会社はたくさんある」という言葉が素敵でした。 ・新規事業は社会をより良くするための事業だからこそ、社会の夢でもあると思う。 ・新事業を始めるには、合理的な選択や情報収集はもちろん大事だが、それと同じくらいにその事業に関わってくる人たちの心も大事なものだった。 ・将来新規事業の計画に携わりたいと思いました。 |
| | 担当教員のコメント | <ul style="list-style-type: none"> ・実務で経験されている内容をご紹介いただいたので、学生たちは熱心に聞いていた。 ・写真や数字をスライドに多用していただき、新規事業の内容やこれまでの取り組みが大変わかりやすかった。 |
| | 反省点・改善すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答の時間を十分に取ることができなかつたため、授業後に学生たちの質問が寄せられる形となった。 ・偶然ではあるが、教室外から騒音が聞こえた。 |
| その他 | | |

愛知県立大学 × 三井住友海上火災保険

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|--------------|--------------------------------|---|
| 講義等 情報 | 大学名 | 愛知県立大学 |
| | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 2019年6月21日、7月5日、7月19日(いずれも12時50分～14時20分) |
| | 講義等担当企業名 | 三井住友海上火災保険株式会社 |
| | 講義等の種類(選択) | PBL(課題解決型)授業 |
| | 対象学部・学科 | 外国語学部、情報科学部、日本文化学部、教育福祉学部 |
| | 対象学年 | 1・2年 |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 48名 |
| | 講義等の目的・狙い | 大学1年生から企業のリアルな課題解決を疑似体験することで、社会で求められる知識、能力、姿勢と自分とのギャップを自覚させ、主体的学修につなげる。 |
| | 講義等のテーマ | 損害保険業とは何か。新たな商品開発にむけて。 |
| | 講義等の内容(プログラム) | 1回目は損保に関する全般的講義と学生への課題提示(新商品の提案)、2回目は課題に対する学生の第一次プレゼンと質疑、3回目は最終プレゼンと講評。 |
| | 使用言語 | 日本語 |
| 正課・非正課の別(選択) | 正課 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | 社会人として必要なことは何かを学ぶことができた。これを今後の大学生活に生かしたい。学生のプレゼンに対する厳しいご指摘もあったが、とても納得できた。 |
| | 担当教員のコメント | 事前に打合せ1回、授業研究会1回を行ったこともあり、講義の内容は相当練られたものだった。課題への取組を通じて学生の成長を実感した。 |
| | 反省点・改善すべき点 | 受講者が例年より多く、各チームのプレゼンへの質疑や講評時間が十分に取れなかったため、適正人数(35名程度)に調整する必要がある。 |
| その他 | | |

岐阜大学 × 電通

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|-------|--------------------------------|--|
| | 大学名 | 岐阜大学 |
| 講義等情報 | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 6月28日 14:45-16:15 |
| | 講義等担当企業名 | (株)電通 中部支社 |
| | 講義等の種類(選択) | 出前授業 |
| | 対象学部・学科 | キャリア支援部門 |
| | 対象学年 | 博士後期課程1～2年(修士課程聴講も可) |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 3名(内、留学生2名) |
| | 講義等の目的・狙い | 博士課程学生に企業の研究開発・研究マネジメントの能力・企業研究者としての基本スキルとノウハウを養成 |
| | 講義等のテーマ | マーケティング戦略的思考とは |
| | 講義等の内容(プログラム) | 講師による講演、受講生との質疑応答 |
| | 使用言語 | 主として英語を使用、一部は日本語も |
| | 正課・非正課の別(選択) | 正課 |
| 実施条件等 | 謝金(選択) | なし |
| | 交通費(選択) | 交通費あり |
| | 備考 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | イノベーションの意味や企業活動でのマーケティングの重要性が理解できた |
| | 担当教員のコメント | 普通の企業活動だけでなく、博士課程の学生が興味を持っている研究活動におけるマーケティング的手法の大事さも話して頂いて、興味深い内容だった |
| | 反省点・改善すべき点 | |
| その他 | | |

岐阜大学×豊田自動織機

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|--------------|--------------------------------|--|
| 講義等情報 | 大学名 | 岐阜大学 |
| | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 7月2日13:00-14:30、7月16日13:00-14:30 |
| | 講義等担当企業名 | (株)豊田自動織機 |
| | 講義等の種類(選択) | 出前授業 |
| | 対象学部・学科 | 工学部 電気電子・情報工学科(応用物理コース) |
| | 対象学年 | 2年生 |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 21名 |
| | 講義等の目的・狙い | 物理・数学が社会の中でどのように活かされているか実例を通して理解する。 |
| | 講義等のテーマ | 物理・数学と社会 |
| | 講義等の内容(プログラム) | 講師による講演、演習、その解説 |
| | 使用言語 | 日本語 |
| 正課・非正課の別(選択) | 正課 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | 今まで1つの学問だと思っていた物理学が、生活と結びついたり社会との関連性があることが、具体的に良く分かった。 |
| | 担当教員のコメント | 今後の自動車産業の動向見通しも含めた講義で、学生も非常に興味を持って聴講していた。昨年度に引き続き、物理や論理についての演習問題を多く取り入れてもらい、非常に有益な機会になったと思う。また、学生が科学技術に関するプレゼンを行う発表会にも参加していただき、多くの有益なコメントをいただいた。 |
| | 反省点・改善すべき点 | 特になし |
| その他 | | |

東海学園大学×豊通ヒューマンリソース

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|--------------|--------------------------------|--|
| 講義等情報 | 大学名 | 東海学園大学 |
| | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 2019.7.17 16:20~17:50 |
| | 講義等担当企業名 | 豊通ヒューマンリソース株式会社 |
| | 講義等の種類(選択) | 出前授業 |
| | 対象学部・学科 | 人文学部・心理学部・教育学部・健康栄養学部 |
| | 対象学年 | 2年生中心(希望があれば他学年も可) |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 11名 |
| | 講義等の目的・狙い | <ul style="list-style-type: none"> ・学生のアウトプット力(自らの考えを発信する力)を強化したい ・コミュニケーションに対して、積極性・重要性を認識させたい |
| | 講義等のテーマ | 異文化コミュニケーション |
| | 講義等の内容(プログラム) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 企業・担当者紹介(自己経験など) 2. 日本と海外の考え方について(映像を用いて) 3. コミュニケーションの壁とは(技術・文化・心理) ※個人・少人数ワークを行いながら 4. 質疑応答 |
| | 使用言語 | 日本語 |
| 正課・非正課の別(選択) | 非正課 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | <ul style="list-style-type: none"> ・文化にある固定観念や先入観に気付かされる内容でした。自分の文化だけでなく、他の文化にも固定観念などは存在し、相互理解が大事であると学びました。 ・自分が正しいと思っていることが、必ずしも他人や多国籍の人に通じるわけではないと分かった。他人にもその人の中にある正しさや文化があり、それを押し付けるのではなく、受け入れて共有することが必要と感じた。 |
| | 担当教員のコメント | <p>映像や個人・少人数グループワークを複数回取り入れていただいたことで、学生は常に興味をもちながら自ら考え・発言し、コミュニケーションの重要性が実践の中で理解できたのではないかと感じた。</p> <p>また、グローバル化が進む中で、固定観念にとらわれるのではなく、異文化や他者を理解していくこと、行動していくことなど、学生の考え方や視野を広げていただいた充実した時間・内容だった。</p> |
| | 反省点・改善すべき点 | 特にありません。 |
| その他 | | |

愛知工業大学×小島プレス工業

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|--------------|--------------------------------|--|
| 講義等情報 | 大学名 | 愛知工業大学 |
| | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 2019.07.25 10:40～12:10 |
| | 講義等担当企業名 | 小島プレス工業株式会社 |
| | 講義等の種類(選択) | 出前授業 |
| | 対象学部・学科 | 経営学部 |
| | 対象学年 | 3年生 |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 35名 |
| | 講義等の目的・狙い | ものづくり, 特に自動車業界に関心を持ち, 社会人としてこの業界で働く姿をイメージさせる。 |
| | 講義等のテーマ | 自動車業界において求められる人材 |
| | 講義等の内容(プログラム) | 1.自己紹介 2.小島プレス工業について 3.自動車業界について 4.事務系の仕事について 5.キャリアプランについて 6.求める人物像について |
| | 使用言語 | 日本語 |
| 正課・非正課の別(選択) | 正課 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | <ul style="list-style-type: none"> ・文献等ではなく実際に生の声が聞けたことがすごく刺激的であり, BtoB企業への関心が高まった。 ・今回の講義が, 将来設計をする上でとても参考になり, 今回感じたこと, 思ったことを忘れずに自分の道を考えていきたい。 ・自動車業界に魅力を感じた。安定した中でも変革が求められる業界は, 常に上を見ながら働けるという点ですごく魅力的だと感じた。 |
| | 担当教員のコメント | <ul style="list-style-type: none"> ・ものづくり, 特に自動車関連業界に対する現状, 魅力等を的確に伝えて頂き, 学生たちの深い理解につながった。またこれまで学んできたものづくり経営という視点から実社会を見つめ直す機会となり, 学生たちの関心, 意識がさらに高まったように感じた。 ・採用の観点からより実践的なお話をして頂き, 学生が自分自身を振り返る機会となり今後の就職活動に意欲的に取り組める形を作って頂いた。 ・このような素敵なご縁を頂きました本事業に対して大変感謝しています。 |
| | 反省点・改善すべき点 | 学生にとって大変有益な講義であったため, もっと多くの学生が受講できるような形を採用すべきであった(必修科目での実施等)。 |
| その他 | | |

名古屋工業大学 × 東海旅客鉄道

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|--------------|--------------------------------|--|
| 講義等情報 | 大学名 | 名古屋工業大学 |
| | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 2019.8.5 14:40～16:10 |
| | 講義等担当企業名 | 東海旅客鉄道株式会社 |
| | 講義等の種類(選択) | 出前授業 |
| | 対象学部・学科 | 社会工学科 |
| | 対象学年 | 3年生 |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 48名 |
| | 講義等の目的・狙い | 従業員管理と教育の実際として、日本を代表する鉄道会社における実践について学習する |
| | 講義等のテーマ | 鉄道会社における輸送サービス向上のための従業員管理と教育 |
| | 講義等の内容(プログラム) | 1. 東海旅客鉄道株式会社における輸送サービスに関する理念 2. 輸送サービス向上のための従業員管理の実際 3. 輸送サービス向上のための従業員教育の実際 |
| 使用言語 | 日本語 | |
| 正課・非正課の別(選択) | 正課 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | 日常的に利用する鉄道サービスにおける工夫や努力を具体的に知ることができた。 鉄道事業に限定されてはいたが、従業員教育について、理念を含めて理解することができた。 |
| | 担当教員のコメント | 実際に従業員管理と教育を遂行する責任者による具体的な内容を知ることができた。 管理や教育の基礎に明確な理念や目標と実際の関係について、具体的に理解できた。 ご担当いただいた方が聴講学生と同分野の卒業生であり、学習内容と社会での活躍との結び付けができた。 |
| | 反省点・改善すべき点 | 良く準備された内容で、分かりやすくご説明いただき、とても話しのお上手なご担当者であったが、時間が不足気味となったことが残念であった。 |
| その他 | | |

中京大学 × 西日本電信電話

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|--------------|--------------------------------|---|
| 講義等情報 | 大学名 | 中京大学 |
| | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 2019年8月6日 13:10～14:30 |
| | 講義等担当企業名 | 西日本電信電話株式会社 |
| | 講義等の種類(選択) | 出前授業 |
| | 対象学部・学科 | 工学部・電気電子工学科 工学研究科・電気電子工学専攻 |
| | 対象学年 | 3年生～4年生, 修士1年生～2年生 |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 21名 |
| | 講義等の目的・狙い | 大学での学びと将来のキャリアとの関連について学び, 将来のキャリアについて考えることで主体的に学ぶ姿勢を醸成する |
| | 講義等のテーマ | ジェネラリストとしてのキャリア形成 |
| | 講義等の内容(プログラム) | <ul style="list-style-type: none"> ・技術者に必要なスキルとは ・仕事で成果をあげる上で重要なことは ・学生時代にやっておくべきこと |
| | 使用言語 | 日本語 |
| 正課・非正課の別(選択) | 正課 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | 普段では聞くことのできない貴重な話をしていただきありがとうございました。社会人になるうえで必要なこと, 仕事で成果を上げるために必要なこと等を聞いて良かったです。また自分の人生における仕事がどれだけ大きいかということも聞くことができ, 今仕事に関して自分が考えていることを改める良い機会になったと思います。 |
| | 担当教員のコメント | 本講演は, 卒業後のキャリアについて考える良いきっかけになったと感じる。学生からも仕事について考える良いきっかけになったというコメントが多数あり, 大変興味をもって聴講していたと考える。 |
| | 反省点・改善すべき点 | 講演中に意見を求められる場面では発言できていたにも関わらず, 講演後の質疑応答が活発ではなかった点が残念であった。積極的に意見交換できるような仕組みを作る必要があったと感じた。 |
| その他 | | |

大同大学×グリーンサイクル

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|--------------|--------------------------------|--|
| 講義等情報 | 大学名 | 大同大学 |
| | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 2019年11月12日(火) 13:00~14:20 |
| | 講義等担当企業名 | グリーンサイクル株式会社 |
| | 講義等の種類(選択) | 会社・工場見学 |
| | 対象学部・学科 | 工学部建築学科都市環境デザイン学専攻 |
| | 対象学年 | 3年 |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 20名 |
| | 講義等の目的・狙い | 持続可能な社会を形成するためには、限られた資源を節約して利用し、可能な限り循環利用することが望ましい。本講では、廃棄物資源と水資源に注目し、その管理手法を学ぶとともに、対象資源、対象物質に応じた処理技術、リサイクル技術、ならびに資源の回収技術を学ぶ。 |
| | 講義等のテーマ | 当該授業日は家電リサイクル法の概要と処理の実態を学び、家電をリサイクルすることの必要性と現状の問題点等を理解することがテーマである。 |
| | 講義等の内容(プログラム) | 家電及び小型家電のリサイクル工場を見学し、リサイクルの現状や課題・問題点を学ぶ。 |
| 使用言語 | 日本語 | |
| 正課・非正課の別(選択) | 正課 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | <ul style="list-style-type: none"> ・ここまで丁寧に解体や選別等を行っているとは思っていなかった。 ・処理の多くが手作業で行っていることに驚いた。 ・1年間で家電80万台が届き処理していることに驚いた。 ・断熱フロン以外をすべてリサイクルに回しており、リサイクル率99%はすごいと思った。 ・この見学を通して「ゴミ」というのはほとんど存在しないんだなと感じました。 |
| | 担当教員のコメント | <ul style="list-style-type: none"> ・金属やプラスチックを分別する原理を説明する模型が改良されており、昨年度まで以上にわかりやすかったです。 ・手作業による解体作業の手際良さにほとんどの学生が驚いていました。 ・手作業による解体、機械による破碎、その後の材料別の回収という中間処理の工程を現場と模型を使ってとてもわかりやすく説明していただきました。 ・トラブルがあったため、時間が十分に取れなかったのが大変残念でした。 |
| | 反省点・改善すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> ・もう少し近くで見学できると、リサイクル中間処理の見ごたえが格段に増すと思います。もちろん作業現場に立ち入ることはできないでしょうから、別室に現物の廃棄家電を置いておき、その解体の一部を見学者が体験できると、より一層リアリティを感じて強く記憶に残ると思います。 |
| その他 | | |

名古屋市立大学 × 三菱UFJ銀行

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|--------------|--------------------------------|--|
| 講義等情報 | 大学名 | 名古屋市立大学 |
| | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 12/5 |
| | 講義等担当企業名 | 三菱UFJ銀行 |
| | 講義等の種類(選択) | 出前授業 |
| | 対象学部・学科 | 医学部、薬学部、経済学部、人文社会学部、芸術工学部、看護学部、総合生命理学部 |
| | 対象学年 | 1～3年(経済学部1年生を除く) |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 140名 |
| | 講義等の目的・狙い | 社会においてどのような人材が求められているか、学生のうちに何を学んでおくべきかを就職支援企業に所属する外部講師から学ぶ。また、様々な業界の外部講師から、各業界の社会的役割、社会における位置づけ、仕事のやりがい、将来性、そこで働く楽しさなどについて聞くことで自身のキャリアをデザインにつなげる。 |
| | 講義等のテーマ | 社会人になるB – キャリア形成に備えた学び – |
| | 講義等の内容(プログラム) | <ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介 ・所属企業が社会において果たす役割 ・組織内での業務区分 ・職務上必要とされる知識や能力 ・仕事のやりがいや所属業界の将来性 などについて、個々の所属団体の宣伝ではなく、業界の代表として講義。 |
| 使用言語 | 日本語 | |
| 正課・非正課の別(選択) | 正課 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | <ul style="list-style-type: none"> ・ネット銀行には出来ない役割が既存の銀行にあることが理解できた ・メディアに踊らされてはいけない、自分で真実を確認する必要があると感じた ・法人営業で社長に会えるというのは魅力に感じた ・「どんなに小さな会社でも、社長は偉い」と話される講師の方の謙虚さが素晴らしいと思った ・「好きなことを仕事にするのは正しいとは言えない」という発言が印象に残った ・残業が殆どないと言われたのが意外だった |
| | 担当教員のコメント | 街中から銀行が減った理由、従業員削減の理由を詳しくお話いただき、さらに今後も銀行には沢山の仕事があることを分かりやすく説明していただいたことで学生は興味を持ったようで、最終日のアンケートでは、出席者134名のうち、11名が銀行を希望していました。 |
| | 反省点・改善すべき点 | 時間割の都合で、1年生の経済学部生を授業に参加させることが出来なかったが、この点については次年度は改善されることになる。 |
| その他 | | |

南山大学×住友商事

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|--------------|--------------------------------|---|
| 講義等情報 | 大学名 | 南山大学 |
| | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 2019年12月9日11時05分～12時35分 |
| | 講義等担当企業名 | 住友商事株式会社 |
| | 講義等の種類(選択) | 出前授業 |
| | 対象学部・学科 | 経営学部・経営学科 |
| | 対象学年 | 1年生 |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 137名 |
| | 講義等の目的・狙い | 場面により様々な意味を持つ会計数字の本質を理解し、ケースごとに会計数字をどう利用していくべきかについて考える力を養う。 |
| | 講義等のテーマ | 「次世代の経営と会計～数字とは何か？」 |
| | 講義等の内容(プログラム) | <ol style="list-style-type: none"> 1. 総合会社とは？ 2. 経理・会計・経営とは？ 3. 過去に学ぶ(自分史より) 4. 未来を考える 5. 経営力を磨いていくために 6. 質疑応答 |
| | 使用言語 | 日本語 |
| 正課・非正課の別(選択) | 正課 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | <ul style="list-style-type: none"> ・講演会でのアドバイスをもとに社会に出る前までに良い考え方を身につけ、周りに適応できる力を養いたいと思った。 ・AIが進展しても、人間にしかできない仕事を見つけ、AIをうまく活用できるようになることが大切だと感じた。 ・会計数字を見るうえで大切なことは現状を正しく理解することであることが分かった。数字は世界共通であるが、誰もが同じように感じるわけではなく、適時・適切な数字を提供しなければならないことを学んだ。 ・実際に世界を回って得た知見をもとにされた講演でしたので、大変興味深い内容でした。 |
| | 担当教員のコメント | <ul style="list-style-type: none"> ・講演では管理会計に関連した話をさせていただきましたので、会計が経営にとって不可欠であることを多くの学生が理解したようである。 ・海外赴任の経験に基づくお話でしたので、多くの学生が関心をもって聞いていました。 |
| | 反省点・改善すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> ・質疑応答の時間を設けることを学生に伝えなかったが、事前に伝えておいた方が良かったように感じた。次回以降、効率的な質問の集め方について工夫したい。 |
| その他 | | |

南山大学 × 大同特殊鋼

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|--------------|--------------------------------|---|
| 講義等情報 | 大学名 | 南山大学 |
| | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 2019年12月9日13時30分～15時00分 |
| | 講義等担当企業名 | 大同特殊鋼株式会社 |
| | 講義等の種類(選択) | 出前授業 |
| | 対象学部・学科 | 経営学部・経営学科 |
| | 対象学年 | 3年生 |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 52名 |
| | 講義等の目的・狙い | 学生に管理会計の実践に対して興味を抱かせる |
| | 講義等のテーマ | 経営計画策定の実際と管理会計業務のやりがい |
| | 講義等の内容(プログラム) | 1. 会社・業界の紹介 2. 経営計画(予算)策定の実際 3. 管理会計業務のやりがい 4. 質疑応答 |
| | 使用言語 | 日本語 |
| 正課・非正課の別(選択) | 正課 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | <ul style="list-style-type: none"> ●鉄鋼業界について知識を深めることができた。 ●中期経営計画, 年間計画, 月次計画の策定の流れを理解することができた。 ●管理会計業務をする上で, 分析力・コミュニケーション能力・判断力・リーダーシップなど総合的かつ高レベルな能力が必要になることを知り, 企業における管理会計業務の重要性を感じた。 ●社長のブレンであり手足であるという言葉が深く印象に残った。経営トップの正しい意思決定のために, 正しい情報を収集しなければならないという強い責任感を感じた。 ●管理会計が実際に教科書に書いてある通りに役に立っていることがわかり, もっと真面目に講義を聞こうと思った。 ●管理会計業務に地味なイメージを持っていたが, その業務が世の中を良くすることに貢献しているという話で感動した。 |
| | 担当教員のコメント | <ul style="list-style-type: none"> ●経営計画の策定プロセスを丁寧に説明いただき, 学生の管理会計に対する理解が進んだようである。 ●管理会計業務のやりがいや魅力が伝わることで, 管理会計を学ぶ意義を多くの学生が感じたものと思う。 |
| | 反省点・改善すべき点 | <ul style="list-style-type: none"> ●学生からの質問の数・質とも十分であった。受講生を減らすことができれば, さらに活発なクラス運営が可能になるものと感じる。 |
| その他 | | |

愛知大学×ジェイテクト

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|--------------|--------------------------------|---|
| 講義等情報 | 大学名 | 愛知大学 |
| | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 令和元年12月10日 3時限(1:00~2:30)4時限(2:45~4:15) |
| | 講義等担当企業名 | 株式会社ジェイテクト |
| | 講義等の種類(選択) | 出前授業 |
| | 対象学部・学科 | 国際コミュニケーション学部 |
| | 対象学年 | 2、3年生 |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 3時限(40名)4時限(38名) |
| | 講義等の目的・狙い | 『ビジネスコミュニケーション』という授業(15コマ)の中で、実際にメーカーで活躍されている方のお話を学生に聞かせたいという目的でした。3年次インターンシップや就職活動に向かうまでの1年間を有効に過ごすためのヒントを掴んで欲しいという狙いもあります。 |
| | 講義等のテーマ | 「製造業における文系学生の活躍の場」 |
| | 講義等の内容(プログラム) | 1. 会社概要とBtoBの重要性 2. トヨタ系グループと文系学生の職種 4. 講師自身のキャリア形成 5. 学生生活や就職活動に対するアドバイス 6. 質疑応答 |
| | 使用言語 | 日本語 |
| 正課・非正課の別(選択) | 正課 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | <ul style="list-style-type: none"> ・BtoBの会社を知ることができ、視野が広がった。 ・講師のキャリアを具体的に伺い、広報や人事部採用チームの仕事への理解が深まった。 ・就職活動や働くことに対して、消極的な部分があったが、働く楽しさを教えていただき、前向きになれた。 ・トヨタ系に勤める父親とも講義をきっかけにして、話し合うことができた。 ・「人と違うことを強みにする」「考動」「なぜ?と考える」ことを今後の生活に活かしたい。 ・講師のような活躍を私もしたいと思い、憧れる。90分があっという間だった。 |
| | 担当教員のコメント | ご依頼して3年目、学生の様子もご理解くださり、親身にご講演いただきました。講師の方のプロフィールやキャリア形成も率直にご紹介いただき、学生自身の自己分析や今後の目標を見つける良い機会となりました。広報部や人事部でのお仕事は大変魅力的で、製造業における文系学生は、どのような活躍ができるのかを示していただきました。来年もご依頼したいです。 |
| | 反省点・改善すべき点 | 事前学習で質疑応答の時間を設けることを伝え、公場における質問の仕方を学びロールプレイもしました。しかし、実際の挙手できたのは、両クラスとも数名ずつでした。もう一段の積極性を身に付けさせたいと思います。 |
| その他 | | |

南山大学×豊田自動織機

| | 項目 | 記入欄(原則として全て記入してください) |
|--------------|--------------------------------|---|
| 講義等情報 | 大学名 | 南山大学 |
| | 講義等の実施日と時間帯 (複数回の場合はすべての日程) | 2020年1月22日(水)14時～17時30分 |
| | 講義等担当企業名 | 株式会社 豊田自動織機 |
| | 講義等の種類(選択) | 会社・工場見学 |
| | 対象学部・学科 | 経営学部・経営学科 |
| | 対象学年 | 2年生～3年年 |
| | 受講学生数 (複数回の場合は各回毎の人数) | 17名 |
| | 講義等の目的・狙い | 原価計算・原価管理の実践について学び、会計に対して興味を抱かせる。 |
| | 講義等のテーマ | 製造業におけるコストマネジメント |
| | 講義等の内容(プログラム) | 工場見学と、製造業でのコスト管理の実際の紹介 1. 会社紹介・事業部紹介 2. 工場見学 3. 原価企画・原価改善・原価計算について質疑応答、座談会 |
| | 使用言語 | 日本語 |
| 正課・非正課の別(選択) | 非正課 | |
| コメント | 学生のコメント(特徴的なものを記入) | <ul style="list-style-type: none"> ●仕事へのやりがいをお聞きし、コストマネジメントに関する関心が高まりました。 ●原価企画・原価改善・原価計算について疑問に思っていたことが理解でき、有意義でした。 ●今まで管理会計について調べても、具体的にイメージするのが難しかったが、お話を聞いてイメージすることができるようになりました。 ●原価企画などの貴重なお話が聞けてよかった。他の部署の方々のコミュニケーション能力が必要であり、大事だということがよくわかりました。 ●実際の経理や管理業務の難しさについて知ることができました。 |
| | 担当教員のコメント | <ul style="list-style-type: none"> ●製造ラインを拝見させていただくことで、学生たちは、日々の原価改善活動やトヨタ生産方式を感じる事ができたものと思います。 ●小グループによる質疑応答の場では、学生たちが積極的に質問しており、関心の高さを感じました。良い学びの場になったと思います。 ●多くの方々にご協力いただきました。深く感謝いたします。 |
| | 反省点・改善すべき点 | ●トヨタ生産方式と原価改善については、学生たちにもっと予習させておくべきでした。また機会をいただけるのであれば、予習を徹底させたいと考えています。 |
| その他 | | |